

12月2日(水)

## 直売所へ秋田杉の棚など寄贈 県内外に木材利用をPR

12月2日、北秋田地域振興局（鶴田嘉裕局長）主催の秋田スギ製品贈呈式が「JA産直おおいこ」で行われ、県産秋田スギで作った案内看板受スタンドと陳列棚が寄贈されました。

本県のスギ人工林が本格的な利用期を迎えている中、木材の消費を喚起することを目的に、身近な施設に製品を設置して農林水産物の販売促進や木材利用をPRすることなどを狙いとした県初めての取り組み。

今回寄贈されたスタンドと陳列棚は県立鷹巣技術専門学校（阿部等校長）の訓練生で建築工芸科と住宅建築科の1、2年生7人が製作したもの。オ



訓練生から贈呈された案内看板受スタンドと陳列棚



訓練生の佐藤さんから案内看板受スタンドを受け取る小笠原組合長

リンピック選手村への木材提供に携わった訓練生が経験を生かし、実習の合間に材を加工するなどして1カ月かけて完成しました。

贈呈式では、鶴田局長が「訓練生たちが製作してくれたこの木製品を展示することで、木材利用のためのPRになる。木材産業の発展のためこれからも支援と協力をお願いしたい」などとあいさつ。

製品贈呈では訓練生を代表して佐藤真哉（まさや）さん（住宅建築科2年）が当JA小笠原隆志組合長に案内看板受スタンドを手渡しました。

小笠原組合長は「木目が美しく、県内外から訪れる客たちに秋田杉の良さを知ってもらおうきっかけになってほしい」と話しました。

12月16日(水)

## 青年部しめ縄づくり

脇神低温倉庫で16日、青年部（岩谷政崇部長）伝統のしめ縄作りが行われ、盟友15人が1月に行われる雪中田植えや葎開きに向けしめ縄2本を作りました。しめ縄に使用した干しわらは青年部が管理する田んぼで育てた稲を青刈りしたもの。事前に木づちや木材など



慣れた手つきでわらを編み込んでいく青年部盟友

で平たくつぶし、柔らかく編みやすい状態になっていました。

しめ縄づくりでは、はじめに芯の部分だけをより分けた後、4本のわらを2本ずつ重ね合わせて両手で揉み込むように編み込んでいきました。しめ縄づくり初体験の盟友には経験豊富な盟友がわらの持ち方や手の動かし方を手ほどきしながら、2時間ほどかけ雪中田植え用約のしめ縄7.2メートルを完成させました。



黙々と作業を進めるなか、時折笑顔も見せる青年部盟友